

信州（長野県）地域エネルギーリサーチセンター	
題目	長野県における地域エネルギーリサーチセンターの取り組み・・・
著者	岡田久典、小野田弘士

概要

信州（長野県）地域エネルギーリサーチセンターは、長野県庁と連携して、カーボンゼロ戦略について様々な研究を行った。ここでは、独自の研究を中心に、概要を述べる。

○産業（グリーン）イノベーションを創出する

宮城県における産業イノベーション研究会の座長を岡田が務めた経験から、長野県地域における地域密着型産業イノベーションについて研究を進めた。その結果、電動低速自動車などが、そのニーズ、地域との関連性、将来性が高いことが明らかとなってきた。

W-BRIDGE における研究でも明らかになったように、総排出量の3割を占める交通分野の低炭素化を推進するとともに、地域経済循環の加速化を図るスキームの開発が必要である。

またこの分野はオープンイノベーションにふさわしい分野であるので、具体的なニーズを集約し形成するスキームを作るために、ソーシャルイノベーションプロジェクトとの連携を実施することとした。

○エシカル消費を促進する

AEON TOWA リサーチセンターとの共同研究のテーマとしては非常に重要な一角を占める。実際に販売実績を出すことが出来るエシカル商品の開発手法、AEON TOWA STUDENTS と AEON ピープル等とのエシカル消費についての探求が極めて重要なポイントとなると考えられる。

○プラスチックの資源循環等を推進する

AEON TOWA リサーチセンターとの共同研究のテーマとして、地域の特性を生かした資源循環の推進方法を研究した。

○森林整備による二酸化炭素の吸収・固定化等を推進する

AEON TOWA リサーチセンターとの共同研究のテーマとして、森林整備による二酸化炭素の吸収・固定化等の推進について研究を行った。

とりわけ、各自治体に密接な関係のある里山地域と二酸化炭素の吸収・固定化等の関係について情報を整理し、新たな吸収源構築スキームを作っていくことを検討した。

また、グランピングビジネスや森林セラピービジネスとの連携などについての知見も収集した。

○農業生産現場における取組を促進する

とりわけ、ソーラーシェアリングの活用普及と農業の6次化などの推進手法についての研究を行った。

特にソーラーシェアリングについて多くの場合、ソーラーの建設が主で、農地の活用はおろそかになるケースが多いことから、システムとしての経済性に問題が生じるケースが多い。結果的に二酸化炭素排出削減につながらないケースもあることから、農地の活用手法についての知見収集に努めた。

○気候変動に適応する

○気候変動への学びを深め、連携の輪を広げる

AEON TOWA STUDENTS と連携し、気候変動への学びについて実践を行う。

○行動する各主体の研究

一般社団法人 地方行政リーダーシップ研究会と連携して地方自治体の行動主体としてのあり方について、元全国市長会長森民夫氏にヒアリングを行った。

○コンパクト+ネットワークまちづくり

この分野の専門家である、招聘研究員の日高正人氏、道満寿子氏からヒアリングを行った。その結果、コンパクト、ネットワーク化のポイントは、①地域における当該分野の研修を綿密に行うこと②情報公開を徹底し、不透明性を払拭すること③Co-Design を徹底させることである。

<次年度の研究計画>

次年度は、AEON TOWA リサーチセンターを連携して、里山の総合的研究を進めていく